

原小だより



横浜市立原小学校

平成30年 4月 5日

4月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hara/>

かがやくひとみ！！あふれる笑顔！！

校長 桃井 陽子

山笑う季節になりました。風も空気も、何もかもが新しく、新鮮な感じに思えるのは、心の働きが作用しているからでしょう。原小学校を取り巻く若葉をいっぱい蓄えた木々も、円形花壇の色とりどりの花も、一つ学年が上がって新しい気持ちで登校する子どもたちを迎えています。

平成30年度がスタートしました。お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今年度は160名の1年生を迎え、全校児童1,001名でスタートします。

4月4日。新6年生が新1年生の教室の飾りや清掃など、新年度の準備のために登校しました。原小学校の新しいリーダーとしてきびきびと働くその姿を、とても心地よく、また頼もしく感じました。よいゴールは、よいスタートにつながる。昨年度末、6年生から少しずつリーダーのバトンを渡されてきた5年生。卒業式に在校生代表として練習から参加する中で、5年生一人ひとりの意識の高まりと成長を感じていました。

子どもたちが、それぞれに、どきどきわくわく感を感じて新しい気持ちと重なる4月。子どもたちの何かよいことがありそうだ！楽しくなるぞ！という期待感を大切に教育活動を充実させていきます。

やりたいことがある、なりた
い自分の姿がある、楽しい仲間がいる・・・子どもたちのひとみのかがやきと笑顔があふれる学校生活になるよう、充実した学級づくり、学校づくりに取り組みます。原小学校では学校教育目標「心ゆたかに、ともに学ぶ子」を掲げ、子どもたちの健全育成をめざして教育活動に取り組んでまいります。目標に向けて、今年度も次のことを大切にします。

◆「一人ひとりが大切にされる学校」

子どもたちはそれぞれに個性をもっています。その中で自分にはよいところがある、中々やるじゃないかなど、自己有用感に基づいた自尊感情を高めていくためには、一人ひとりにしっかりと向き合い、子どもの思いや願いに寄り添いながら、その時々合った支援や指導に努めることが大切であると考えます。子どもたちのよさを伸ばし、学校に来るのが楽しい！と思えるような学校。子ども一人ひとりに居場所があり「出番」と「感動」がある学校づくりを進めます。

◆「チーム原」

学校は、一人ひとりの子どもを様々な教職員で見守り、育てます。子どもと担任という関係だけでなく全教職員で共通理解を図りながら共通指導方針に添って、その子らしい成長を支援していきます。毎日の学校生活では、楽しいことばかりではなく、時には気になることや心配なこともあるかもしれません。そのような時にも、担任はもちろん、学年主任や養護教諭、児童支援専任や学校カウンセラーなど他の教職員にもご相談いただけたいと思います。

子どもたちの「かがやくひとみと、あふれる笑顔」のために全児童を全教職員で育む、という姿勢で「チーム原」、教職員一同、一丸となって取り組みます。

保護者の皆様、地域の皆様、今年度も変わらぬご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

お知らせ

○大久保教諭は結婚し、姓が変わり、鴨志田教諭となりましたのでお知らせします。

○瀬戸教諭は、出産のためにしばらくお休みします。

原小だより



「創立75周年」

新しさの中で、一步一步！！

校長 桃井 陽子

青葉若葉の緑が輝き、校庭から、子どもたちの元気な声が校長室にも飛び込んできます。平成30年度が始まり、一か月が過ぎました。西門側の昇降口近くに真新しい植木鉢がきれいに並んでいます。1年生が、2年生に教えていただきながら自分の植木鉢にアサガオの種をまきました。植木鉢のどこに、どのくらいの深さに種をまいたらいいかな？水やりはどうするのかな？やさしく丁寧に、自分たちが一年前、そうしていただいたように、今度は自分たちが教える番。話し合う子どもたちの、かわいらしい背中が想像されました。

校内を巡ると、この時期ならではの、またその学年に応じた活動が始まっていることがわかります。4月始まって間もない、まだ今年度の委員会が発足していない時、給食室のホールでは、昨年度の給食委員会の子どもたちが委員会の仕事をしていました。慣れた様子できびきびと働くその姿を、昨年度、充実した委員会活動をしていたからこそ、この姿につながっていると感じ、うれしく思いました。朝の会の進め方を確認しながら、日直さん二人でがんばっている教室からは、子どものどきどきが伝わります。係を決めている教室や一年間のめあてを考え項目ごとにまとめている教室。ノートの使い方を確かめながら、自分なりに工夫してノートに学習したことをまとめている教室。それぞれの教室で新しい学級文化のスタートです。

4月も終盤にさしかかった頃、あるクラスの朝の黒板に担任の先生から、こんなメッセージが登校してくる子どもたちに記されていました。

おはようございます。
雨ですね。が！元気に一日、
過ごせるといいですね！
今日の理科は、いよいよ実験！
火を使うので気をつけてやろう！
みんなが考えた「こんなクラスに
したい」を実現していけるといいな。

登校して教室に入り、このメッセージを子どもたちはどんな気持ちで読むのかな、何かわくわくして、今日もいいことがありそうだ。このクラスをみんなで創りあげていこう！！そんなさわやかな思いを、私は感じながら読みました。この教室では、「このクラス、どんなクラスにしたい？」という担任からのなげかけに対して、子どもたちがロク々に伝えたのでしょう。個の思いからクラス全員の思いにまとめあげられたのではないのでしょうか。どんなクラスにしたいと考えたのかな・・・一年間の成長が楽しみです。

23日には「1年生を迎える会」がありました。6年生に手をつないでいただきながら花のアーチをくぐる1年生は、安心感にあふれて笑顔いっぱいでした。6年生はやさしさに満ちあふれたまなざしを、自分のペアの1年生に注いでいました。そこには育ち合う子どもの姿があります。いよいよ5月7日から、1年生は朝会デビューです。

今、正に、その新しさの中で一步一步が始まっているのです。その時々、タイミングを逃さず、一步一步、学級文化は紡がれていきます。それはやがて、学校文化の一步一步になっていくことに違いありません。「一人ひとりが大切にされる学校」、子ども一人ひとりに居場所があり「出番」と「感動」がある学校につながっていく。学校生活の日常の中の意図をもった小さな積み重ねに期待し、それを価値付けながら教室を巡ります。

知らせ

今年度、原小学校は、創立75周年を迎えます。75周年を記念して航空写真撮影を予定しています。この地をふるさととして成長していく子どもたちのために、ぜひ小学校を創りたい。このような地域の皆様の思いを集めた原小学校誕生から75周年を迎えます。この一年間、様々な場面でこのことを意識して、喜び合いたいと考えています。

まずは、「創立75周年記念 原小オリンピック」。今年のテーマは、「輝け原の子！ ～みんなで作り上げよう。原小オリンピック～」に決まりました。保護者の皆様、地域の皆様、ご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

原小だより



横浜市立原小学校

平成30年 5月31日

6月号

とも育ち

校長 桃井 陽子

5月26日(土)の創立75周年記念 原小オリンピック開催にあたりましては、保護者や地域の皆様にはたくさんのご声援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

子どもたちは、全員が一生懸命、全力でがんばる原オリにしたい、という思いから生まれた今年度のテーマ「輝け原の子！みんなで作りあげよう原小オリンピック」のもと、力いっぱい競技や演技に、それまでの練習の成果を発揮することができたのではと思います。閉会式で白組、赤組の応援団長にそれぞれ優勝旗、準優勝カップを手渡したときの二人のじっと私を見つめるまなざしは、精一杯その力を出しきったという本当に清々しく、すばらしいものでした。

原小オリンピック(運動会)は学習の成果を発表する場であることは言うまでもありません。競技にしても演技にしても、それまでの練習(準備)、日頃の学びがあつてこそ、本番の当日に力を発揮することができます。また原オリは子どもたちにとって、自分のもてる力を発揮して競い合う場であることも確かです。赤白の2色対抗になって4年目となりますが、毎年、赤、白のどちらのチームが優勝するのか、子どもたちには大きな関心事です。団体競技の華である騎馬戦やリレーの勝敗に熱く燃えるのは大人も同様です。勝った負けたの結果はともかくとして、勝利を賭けて真剣に闘う姿に魅せられるのだと思います。

先頭で駆け抜けゴールテープを切る瞬間。接戦の末、相手の騎馬から帽子を取った瞬間。勝ったチームを先頭に運動場を一周するリレーの選手たち。笑顔が子どもたちを輝かせます。

「とも育ち」という言葉を聞かれたことはあるでしょうか。私も以前、教えていただき、なるほどと思いました。様々な捉えがあるようですが、その一つ。根菜類の種は隙間を空けずに、ある程度、数多く蒔くのだそうです。その方が発芽も伸びもよいのだそうです。どうせ間引くのだから、最初から隙間を空けた蒔きの方がよいのではと思うのですが、そうではないということです。のんびりやの種も先に目覚めた種につられて、ひょっこり芽を出すかもしれません。お日様の光をいっぱい浴びるためには、がんばって背伸びしなければなりません。友達ががんばるから自分もがんばる。切磋琢磨しながら成長していく子どもの育ちに似ているところがあるように感じます。

一人ひとりのよさや個性を伸ばすことが大切にされ、表だって競い合うことが近年少なくなってきたようにも感じます。その中で、原オリ(運動会)は子どもの本気、一生懸命が見られるよい機会であったと思います。

学校という集団の場だからこそ、鍛え合い励まし合い、よい影響を与え合うことのできる環境を大切に、お日様に向かって精一杯伸びようとする「とも育ち」ができるように、これからも教職員一同、力いっぱい努めて参ります。



改めて、皆様のご支援により、今年度の記念すべき「原小オリンピック」が子どもたちの充実した思いとともに、無事終了できたことを感謝申し上げます。